善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

いつ縁が尽きても不思議でない命
完全燃焼させて精一杯努めよう

妻子を高齢ドライバーの暴走事故で一瞬のうちに亡くしたご主人が涙の記者会見をされました。「この先、自分は生きていく意味があるのか？」自問自答された上での会見でした。「少しでも運転に不安のある人は、車を運転しないという選択肢を考えて欲しい」「少しでも犠牲者がいなくなる未来になって欲しい」との涙の訴えです。誠に胸が痛みます。

実はある知り合いの男性で、奥さんが亡くなった後、二年足らずの間に一人息子さんも失った方がいます。共に病死であり、同時ではありませんが、妻子に相次いで先立たれて、「この先どうやって生きて行けばいいのか？」と苦悩しつつ、生の意味を求める姿には共通するものがあります。

ところが、その男性が京都のご本山で仏教徒の入門式である「帰敬式」を受けることを決意されました。その話を聞いて「これもお浄土でみ仏さまと成られた亡き奥さんや息子さんのお導きですね。どうぞ、京都への旅が心安らぐ仏縁になりますように」とエールを送りました。

「この世の縁の尽きるとき　如来の浄土に生まれては　さとりの智慧をいただいて　あらゆるいのちを救います」と『浄土真宗のすくいの喜び』の一節に示されています。

亡き人は大悲の悲願に救われて、お浄土に往生成仏されれば直ちに還相の菩薩さまとして命がけでこの世の闇に苦悩する私たちに働きかけて下さいます。亡き奥様もお子様もすでに仏の一員となって残されたご主人に向かって呼びづめに喚んで下さっています。「生かされるご縁の尽きるまでどうか精一杯生きて下さい。必ずお浄土でお会いしましょう」と願われているのです。

帰敬式を受け法名を授与されるのはお葬式のためではなく、仏道のスタートです。仏の教えをわが身の上に聞き開き、**「いつ死んでもよし、いつまで生きてもよし」**の大安心を頂くことが肝要です。聴聞を重ねる外ありません。

生と死は一枚の紙の裏表のような関係であり、切り離すことができません。**「生のみが我らにあらず、死もまた我らなり」**（清沢満之）。我々は単なる世相（交通事故対策等）の評論家で終わらず、いつこの世の縁が尽きても不思議でない今日のいのちを完全燃焼させて、共々にお浄土に至る人生を精一杯生かされて参りましょう。

ホットニュース

☆４月の例会で**新行事長に山本守氏、新会計さんに舘司郎氏が選出**されました。令和元年よろしくお願いします。

☆６／18名古屋別院、東海教区門徒総代総会・研修会に、舘十三生様、舘勤様、服部則男様が参加されます。

☆行事ご案内☆

◇門信徒会：6月16日（日）夜7時半

①「正信念仏偈」と意訳勤行（ひかりのうた）
②「浄土真宗の救いの喜び」の紹介、解説

◇一縁会テレホン法話：TEL059・354・1454 お電話を下さい
三重組５か寺の僧侶、若院、坊守が週替りで３分法話
５／１３（月）～１９（日）住職、５／２０～２６坊守
５／２７　～６／２若院、６／２４～３０住職、善正寺の３人が週替りで担当ぜひ一度聞いて下さい。

◇キッズサンガ6月8日（土）4時、新しいお友達もどうぞ！
5時の鐘撞きは年中無休、誰でも可。子供達に心の教育を！

◇【募集】来年４月18日（土）午後１時『初参式』三全仏婦主催
赤ちゃん幼児大募集！千円写真冊子付、皆で子供の誕生を祝福

◇絵手紙教室６月11日（火）10時庫裏、44回目初心者大歓迎

◇お寺で歌声喫茶：５月20日（月）午後１時庫裏食堂、５回目、

◇三重組仏教講習会 ６／１４午後常徳寺様、６／１５午前午後法林寺様、６／１６午前午後法泉様、石崎博敍先生（大阪）

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、過去１年分の寺報閲覧**毎日更新のブログ『住職と坊守のつれづれ日記』**開設１０年１０か月で累計２９万３千訪問、コメントやお悩み相談大歓迎即返信します。スマホでも見られます。一度訪問を！

◇新納骨堂：後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

☆　写真アラカルト　☆

坊守（ぼうもり）スケッチ

人生の着地態勢

飛行機が着陸態勢に入る時「シートベルトをお締め下さい」というアナウンスがあります。人間が人生の終末期を迎える時、どんな心の準備をしているでしょうか？自宅で最期を迎えたいと望む人は多くても、現実は病院のベッドから葬儀場へと運ばれるケースが大半です。平成時代は人間の死を家族から遠ざけてしまいました。しかし令和になって少子高齢化が加速し、年間死者数は増加の一途。病院のベッド数と看護師の不足で、再び自宅で最期を迎えなければならない時代になるかもしれません。

夫を在宅介護で看取った現役看護師の玉置妙憂さんが、夫の死後僧侶になりました。彼女は『死にゆく人の心に寄り添う・医療と宗教の間のケア』（光文社新書）という本を書きました。

死の間際に人の体と心はどう変わるのか？自宅での看取りに必要なことは何なのか？死にゆく人の心の持ち方と残される家族の心の準備を、彼女自身の経験と医療知識を踏まえて分かり易く記しています。

在宅看取りとは治療しないことではなく、残された時間に本人のやりたいことを優先させることです。それには家族全員が同じ方向を向くことが大事です。病院ならば点滴や胃ろうで命長らえますが、在宅の場合は本人の心と体の変化を、家族が見逃さないことが必要です。先ず死の３か月前から外の世界に興味が無くなり、心が内向きになります。そのうち食欲が落ちて痩せてきます。やがて昼夜を問わず眠くなり、夢を見ながらうつらうつらします。死の１か月前から血圧や心拍数、呼吸数、体温が不安定になります。死の２週間前には痰が増えて苦しみます。しかし短時間ですが、急に体調がよくなる日もあります。死の２４時間前には尿も出なくなり下顎の呼吸に変わります。その頃筋肉が緩んで尿と便がバッと出て体内をきれいにして心停止。目が半開きになり息を吸って止まります。死の間際を知ることは、先立つ人も看取る側にも不安を極力少なくしてくれます。

台湾では臨床宗教師という僧侶が心のケアを担っています。私達も死にゆく人と残された家族の心に寄り添えるお寺になりたいと思います。

寄稿

そら豆や小鉢の中は萌黄色　釋妙水
春光やクレヨン持つ手歪む顔
釣り人や見つめる先は春の海
友逝くや令和に代わる四月に
二人して剥きし初物豆ご飯　釋清風
令和明け水面を揺らし蛙鳴く
葛城の山並み映える春夕焼
令和入り新緑清き神武陵

☆若院夫婦の『育自な日記』５４

四月、小学校では家庭訪問がありました。我が家の長男は二年生になり、若い女性の先生が担任になりました。一年の家庭訪問では、初めての事で前日から大興奮していた長男ですが、今年はやや落ち着いた様子です。それでも先生がいらっしゃるとソワソワしつつも、お喋りは通常通りでした。

「大きな声でハキハキお話できて素敵です。」と家では大き過ぎる高い声も、長男の長所と褒められました。

居間の本棚にＮＨＫ『チコちゃんに叱られる』の本を見つけた先生は、「いつも出題してくれます」と笑顔で教えてくれました。先生とクラスの皆さん、いつもお相手、有難うございます！

その数日後、書道教室の生徒のお祖母様から、山で採ったフキノトウを頂きました。「二年生が国語の授業でフキノトウを学習する頃だから、本物を見て欲しい」というご配慮でした。早速、長男に学校へ持たせると、「写真で見せましたが、実物の力を知りました。」と先生から丁寧なお礼の手紙を頂きました。子どもたちの事をよく考えて下さる先生だなと安心しました。

二年生になると、学習することが増えて大変だと思いますが、焦らず見守っていきたいと思います。（若坊守）

☆**一縁会テレホン法話。５／１３より６／２まで、週替りで善正寺の住職、坊守、若院の法話が流れます。０５９・３５４・１４５４へ一度お電話下さい。**

☆**お寺で『歌声喫茶』**５回目は**５月２０日(月)午後１時**より庫裏食堂で。不定期ですが毎月１回開催。少人数ですが三味線やマンドリン、ギター伴奏で、童謡、懐メロ等リクエストに応じて皆で歌います。お気軽にご参加下さい。

平成３１年度・善正寺主な行事案内

☆**善正寺門信徒総会**５月１９日午前１０時庫裏で昼食弁当を用意。

☆**盂蘭盆会法要**８月１５日朝８時半

☆**秋季永代経**（８月１７日・１８日）両日共午後、尼崎市　足利孝之先生

☆**小杉町仏教会追悼法**要９月２２日（日）午前１０時・午後１時・相愛大学教授・ＮＨＫ『シブ５時お悩み相談』出演中の釈徹宗先生（初）

☆**報恩講**１１月２日（土）午前と夜３日（日）午前のみ。但し２日１１時より正午お非時接待あります。（講師）京都るんびに園理事長・藤大慶先生

☆**秋勧進**１１月２３日午前８時

☆**お内仏報恩講**１２／７午前１０時半

☆　編集子より　☆

「善正寺だより」第３０６号をお届けします。◇新元号「令和」の考案者（？）中西進先生は「和は聖徳太子の『和を以て貴しとなす』の心が偲ばれる」と述懐。「篤く三宝（仏法僧）を敬え」との太子の姿勢こそ和の礎です。合掌。

令和のご即位は、日本国民が一つになって再出発したような感動に包まれました。国民の多くが新天皇、新皇后両陛下に尊敬の念と期待を寄せています。私は昭和、平成、令和と三つの時代を生きますが、親鸞聖人の時代は十一人の天皇交代があり、元号は三十六回も変わりました。平家の全盛期に始まり滅亡、安徳天皇の壇ノ浦入水、国家を揺るがす権力闘争等、多事多難な時代が続きました。特に寛喜の大飢饉は、鎌倉時代最大規模の冷害や大洪水、台風に襲われ「天下の人種三分の一を失す」と記されています。過酷な現実を目の当たりにされた聖人は「念仏こそ救われる」と教えられ、人々は念仏を唱えることで生きる望みを託しました。改元は人心を一新させます。ところで令和の時代もかつて経験したことのない超高齢化社会、少子化と人口減少による過疎化、地球温暖化による異常気象、国家も家族もバラバラ、自己利益優先の孤立社会に突入しています。令和の行く末は、私達一人一人の心の持ち方に関わってきます。ご先祖が築いた伝統を一気に壊すのではなく、その精神を受け継いで皆が心和める社会となるように努めましょう。それには日々感謝の心を忘れず、お互いに拝み合う家庭を築くことが第一歩です。埼玉のKさんは「住職と坊守のつれづれ日記を読むことが、私の朝一番のお勤めです」と言って下さいました。令和の時代も毎月の寺報発行と毎日のブログ更新に努めますのでどうかよろしくお願い申し上げます。合掌

令和元年六月　善正寺坊守　拝